

新しい時代の感性は
どのような空間を
もたらすのか

21世紀の建築と
都市空間は
どうなるのか

100年前に勃興したモダニズムは、産業革命後の社会の変化を受けながら、鉄・ガラス・コンクリートなどの新しい素材と構造を用い、新しい時代の感性を反映した建築を生みだした。現在は、情報技術をもとにしたコミュニケーションの発達、設計、生産、施工の現場に与えるコンピュータの影響、急速なメディア環境の変化など、身体や感性を揺さぶる、さまざまな状況が起きている。そこで今回は、もっとも若い世代の建築家と編集者を招き、新しい感性がつむぎだす、空間の可能性について討議したい。

シンポジウムでは、今年、国立近代美術館に出品した驚異的なまでに繊細な作品「とうもろこし畑」によって大きな話題を集めた中村竜治氏、編集者として同世代の建築家と併走し、ムーブメントを仕掛けている山崎泰寛氏、これまでにない感性を持ち込み、U-30の最若手の建築家としてもっとも注目されている大西麻貴氏を迎え、次世代の表現と可能性について討議する。

東北大学教授 **五十嵐太郎**
総括

中村竜治 建築家／中村竜治建築設計事務所代表
作品について

編集者／建築ジャーナル編集部 **山崎泰寛**
この世代の建築メディア

大西麻貴 建築家／大西麻貴＋百田有希・東京大学大学院
小さな建築から考えること

主催 日本建築学会関東支部事業企画検討委員会
日時 2010年12月17日(金) 18:30～21:00
会場 建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)
定員 250名(当日先着順) / 参加費 無料